

# 舗装補修の作業手順書

作業名	施工時のポイント	備考
①施工範囲の決定	舗装損傷・舗装浮き等がある場所を施工範囲とする。 浮きの部分は、点検ハンマーの打音にて判断する。	作業範囲が規制外にならないよう施工範囲決める 同じ規制内での他作業との離隔を確認する
②舗装切断工	事前に、飛散防止対策・粉塵対策の為、 必ず、ネット養生(4方向全て)を確実にを行い、 粉塵吸塵式か湿潤式の Cutter にて舗装切断を行う。	適正な保護具を着用する 手元十分に確認し、慎重に切断を行う 周囲に埋設物が無いか最終確認を行う
③舗装・床版取壊し工	事前に、飛散防止対策(ネット養生4方向全て)を確実に行う。 <b>設置する養生ネットにおいては、3.0m×1.5m×H2.0を使用</b>  ハツリ時に、粉塵が多量に発生する場合は、散水養生を合わせて行う。 床版を研りながら、劣化部分の取り残しが無いよう打音調査を行いながら 研り作業を行う。	<b>はつり箇所が装備したネットより大きい場合は、段階的にはつり箇所分けしネットを移動し、研り箇所が横・上と完全にネット養生した状態を確認し作業に取り掛かる。</b>  ノミを垂直に立てて床版を打ち抜くことが無いように 研り状況を確認しながら作業行う 適正な保護具を着用する 研り時間22:00を目安に作業をする。 以後の騒音に十分に気を付ける。
④床版清掃工	床版面を、ほうきや掃除機などを用いて 小さなコンクリートガラや結束線などの清掃を行う。 (特に、隅など入念な清掃をすることが必要) 施工箇所周囲に飛散した小さなガラも忘れずに清掃する。	プロアールで埃や粉末が煙のように巻き起こさない  走行中のダンプから、研りガラが落ちないように 確実に積込みを行い、落下しそうなものは除去する
⑤鉄筋清掃及び鉄筋工	鉄筋表面の塩分除去のため、 ワイヤーブラシを濡らして鉄筋の表面がきれいになるまで、清掃を行う もし、既設の鉄筋に損傷及び不備がある場合は、 同じ鉄筋径(D13及びD16)の補強鉄筋を配筋する。 鉄筋清掃終了後、鉄筋が乾いたことを (防さび効果のあるPDプライマーを十分に塗布する)	ブラシやガラが飛散し目に入らないように保護具をつける
⑥床版補修 (PDモルタルによる補修)	別途、カタログの施工手順を守って施工する	使用材、廃棄物の処理を確実に 粉末の飛散、混和液の流出に注意する 床版に水分が見られるときはバーナーで乾かすが、 消火器を用意し、周囲に可燃物を置かない
⑦防水工 使用材料・タフシール	PDモルタルの養生完了後、防水工を施工する。 防水材は、ムラの無いように平坦になるように施工する。 使用量は、1.2kg/m2を目安とする。	火器の使用には注意する
⑧合材敷均し(基層) 使用材料・タイプG(改質II型)	合材敷均しを行う前に、 舗装の立ち上がり部に、乳剤(PK-4)を施工する。 舗装の敷均しは、1層が7cm以下となるように施工する。  平坦に敷均し後、所定の転圧回数を施工する。	資材の運搬には、交通規則を遵守し一般車優先で 走行する。 ダンプのバック誘導を確実に 舗設作業員とダンプ運転手はわかりやすい合図を 事前に決めておく。 高温による火傷がないよう保護具を着用する
⑨乳剤散布 使用材料・PK-4	乳剤散布は、ムラの無いように施工する。 使用量は、0.4L/m2を目安とする	
⑩合材敷均し(表層) 使用材料・タイプG(改質II型)	舗装の敷均しは、1層が7cm以下となるように施工する。 平坦に敷均し後、所定の転圧回数を施工する。 路面開放は、表面温度が50℃以下とする。	ローラーの進行方向には入らない

